



# メタカム® 0.5% 注射液



Boehringer  
Ingelheim

## 動物用医薬品

2022年6月改訂

貯法 室温保存

承認指令書番号	27動薬第3139号
販売開始	2001年5月
再審査結果	2009年10月30日

## 犬猫用非ステロイド性消炎鎮痛剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

# メタカム® 0.5%注射液

### 【成分及び分量】

品名	メタカム0.5%注射液
有効成分	メロキシカム
含量	1mL中5mg

### 【効能又は効果】

犬：術中・術後の鎮痛  
猫：術後の鎮痛

### 【用法及び用量】

犬：術前に体重1kg当たりメロキシカムとして0.2mg(製剤として0.04mL)を1回皮下投与する。

猫：術前に体重1kg当たりメロキシカムとして0.3mg(製剤として0.06mL)を1回皮下投与する。

### 【使用上の注意】

(基本的事項)

#### 1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・注射器具は、滅菌されたものを使用すること。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は、直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- ・本剤を分割投与する場合は、速やかに使用すること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分の許可を有した業者に委託すること。

#### 2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・非ステロイド系抗炎症剤 (NSAIDs) に過敏症の既往歴のある人は、本剤との接触を避けること。
- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。なお、本剤の添付文書を持参することが望ましい。
- ・本剤は眼を刺激することがあるため、眼に入った場合は直ちに水で完全に洗い流すこと。

(犬及び猫に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

## 【専門的事項】

### ① 対象動物の使用制限等

- 妊娠或いは授乳中の犬及び猫に対する安全性は確認されていないため、投与しないこと。
- 本剤は、消化管に刺激性若しくは出血性の疾患が認められる犬及び猫、肝臓、心臓或いは腎臓の機能障害並びに出血性疾患が認められる犬及び猫、及び本剤に対し過敏症の犬及び猫には投与しないこと。
- 本剤は、腎臓に悪影響を及ぼす場合があるのので、脱水症状、循環血流量減少或いは低血圧症の犬及び猫には投与しないこと。
- 本剤に過敏症の既往歴がある犬及び猫には使用しないこと。
- 本剤は、6週齢未満の幼若犬及び猫、或いは2kg未満の猫には極力投与を避けること。

### ② 重要な基本的注意

- 高齢で衰弱した犬及び猫は、副作用が発現しやすくなるおそれがあるため、臨床症状を十分観察しながら慎重に投与し、異常が認められた場合は速やかに投薬を中止して適切な処置を施すこと。
- 猫では、メロキシカム又は他の非ステロイド系抗炎症剤 (NSAIDs) を本剤に追加経口投与する場合の適切な用量は確立されていないため、猫へのメロキシカム又は他のNSAIDsの追加経口投与はしないこと。
- 麻酔時には腎血流量の低下等のリスクが伴うため、必要に応じて補液等の処置を施すこと。

### ③ 相互作用

- 腎毒性を有する可能性のある薬剤との併用は避けること。
- 他のNSAIDs、利尿剤、抗凝固剤、アミノグリコシド系抗生物質及び高い蛋白結合率を有する物質との併用は毒性作用がみられることがある。ステロイド系及び他の非ステロイド系抗炎症剤、アミノグリコシド系抗生物質或いは抗凝固剤と併用しないこと。抗炎症剤を前投与している場合、副作用の発現或いは増強が生じることがあるので、本剤の投与前に最低24時間は間隔を空けること。但し、前投与した薬剤の特性に基づき、この期間を適宜延長すること。

### ④ 副作用

- 本剤の投与により、NSAIDs特有の食欲低下、嘔吐、下痢、潜血便、元気消失及び腎不全がときに見られることがある。また、肝酵素の上昇、出血性下痢、吐血及び消化管潰瘍がまれに見られることがある (0.01%未満)。消化管への副作用はほとんどの場合、一過性で投与を中止すれば消失するが、まれに重篤化することがある。
- まれに本剤投与後にアナフィラキシー反応が認められる可能性がある (0.01%未満)。アナフィラキシー反応が認められた場合は、適切な処置を行うこと。

### ⑤ 過量投与

- 本剤を誤って過量投与した場合には、適切な処置を施すこと。

## 【薬理学的情報等】

### (薬効薬理)

メロキシカムはペーリンガーインゲルハイムファルマ社 (ドイツ) によって合成され、ペーリンガーインゲルハイム ベトメディカ社 (ドイツ) によって開発されたオキシカム系の非ステロイド系消炎鎮痛剤である。

メロキシカムは、炎症性反応を引き起こすプロスタグランジンの生成を誘導するシクロオキシゲナーゼ2 (COX-2) を優先的に阻害することにより消炎・鎮痛効果を発揮し、従来の非ステロイド系消炎鎮痛剤に見られるような消化管障害、腎毒性等の副作用の発現が少ないという特徴を持つ。

### (臨床試験成績)

#### ① 犬

外科手術 (整形外科手術及び軟部組織手術) を行う犬を、本剤を用法及び用量に従って術前に1回投与するメタカム群63頭と無投与群32頭に分け、術後30分～20時間までの間に5回、犬の状態\*を観察しスコア化した。いずれの観察時点においても、メタカム群のスコアは無投与群より有意に低く ( $P < 0.01$ )、本剤の鎮痛効果が確認された。

\*:興奮状態及び活動性並びに触診時の疼痛

#### ② 猫

外科手術 (整形外科手術及び軟部組織手術) を行う猫を、本剤を用法及び用量に従って術前に1回投与するメタカム群84頭と無投与群45頭に分け、術後1～24時間まで猫の状態\*をスコア化した。スコアの推移に関する両群の曲線下面積 (AUC) を比較した結果、メタカム群のAUC値が有意に低く ( $P < 0.0001$ )、本剤の有効性が確認された。

\*:興奮状態及び活動性並びに触診時の疼痛

### 【製品情報お問い合わせ先】

ペーリンガーインゲルハイム  
アニマルヘルス ジャパン株式会社  
〒141-6017東京都品川区大崎2-1-1  
お客様相談窓口 TEL:0120-499-419

### 【使用期限】

ラベル・外箱に記載

### 【包装】

10mL 1バイアル

製造販売元



Boehringer ペーリンガーインゲルハイム  
Ingelheim アニマルヘルス ジャパン(株)  
東京都品川区大崎 2-1-1

®登録商標

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。